

2/12 男女共同参画フォーラム報告 ~もっと

第3分科会 薩摩川内市女性団体連絡協議会

「みんなで考えよう 性と生」

少子高齢化の到来により、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化し、特に思春期の子ども達の性の問題は社会問題になっている。性を考えることは、生きること考えることで、人間の生き方、生命の尊さ、女性と男性における性の在り方の違いについて、4人のパネラーが各々の立場から発表し、会場との質疑応答の形で進められた。薩摩川内市は若年者の人工妊娠中絶率が県下でも高い。生徒にアンケートを実施した高校養護教諭は、性教育の大切さを危機感を持って感じ、一部の生徒とはいえ子どもたちの置かれている現状に対応する難しさに苦慮しているという。また最近婚約し同居を始めた男性は、男だから女だからではな

く、家事育児お互い協力してやっているという意見、育児サークルキッズランドの女性は「小さいは小さいなりに性について教えることが必要なのでは」という会場からの意見に対して「今までそういう観点で接してこなかった。みんなで話し合っ取り組めれば」と応えていた。行政からは具体的な施策や事業の紹介があった。

(N. I)



第4分科会 ジェンダー研究サークル

「女は結婚して子どもを産まないと一人前じゃないの？」

少子化の原因は産まない女性にある…そんな声が聞こえてくる現代の日本社会に疑問を抱いたことから始まった今回のワークショップは『シンデレラ』や『白雪姫』のように白馬の王子様をたどった受身で待ち続けるヒロインに



注目し、理想の相手との結婚を待ち望む女性たちの晩婚化を指摘した。また育児における女性の悩みを調査し、諸外国の

育児支援の取り組みとの比較から、日本における育児支援の未熟さと子育てについての社会の認識の低さを指摘した。発表者の問題提起を受けて五つのグループに分かれて活発な意見交換が行われ参加者の問題意識の高さを示した。女性は産む可能性のある「性」であって、その人間の価値は子どもを産むか産まないかによって決まるのではない。男女問わず多様な生き方を認め合い、色とりどりの花が咲き誇る日本社会の実現に期待し、一人ひとりの意識改革の必要性和日常生活における社会を変える小さな勇気ある行動の実践を提案しワークショップは終了した。(S. M)

第5分科会 オアシスクラブ

「男の本音って？」

まちづくりの活動を続けるオアシスクラブの男性によるワークショップには、4割の男性に6割の女性、60数名の参加で大盛況だった。「伝えたい、分かっほしいという気持ちを抱えながら、本音を語る場が無いという男性の気持ちを出し合える場にしたい。」と、山田晋先生は参加者に語られた。女性側が地域の役員を避けたり、女性同士で批判し合ったりするところがあって苦勞する。女性がみな表に出たいと思っているわけではないのではといった男性の意見が出てきた。それに対する女性の意見も交わされ、参加者それぞれ

に考える場が与えられたように思う。このような場で男女ともに、お互いの本音を出し合い、よりよい社会になるよう歩み寄ることが、男女共同参画社会の実現を進めていくであろう。その意味で、このワークショップの意義は大きい。(K. K&H. N)

